

名大の時間

「コミュニティ」とは一体？

「この「コミュニティ」という言葉について、日本でなぜ注目されるようになったのか、限定的ではあるが少し書きたいと思う。

日本においてコミュニティという言葉が注目され始めたのは、高度経済成長の時代だ。1969年に国民生活審議会調査部会が「コミュニティ―生活の場における人間性の回復―」という報告書

を発表した。この報告書ではコミュニティの重要性について書かれている。では、なぜコミュニティが重要とされたのか。かつて多くの地域

では「地域共同体」が存在していた。この共同体は、その地域においてお互いに助け、支え合いながらムラやイエを維持してきた。しかし、戦後の農業の近代化や交通網の発展、そして生活様式の急速な変

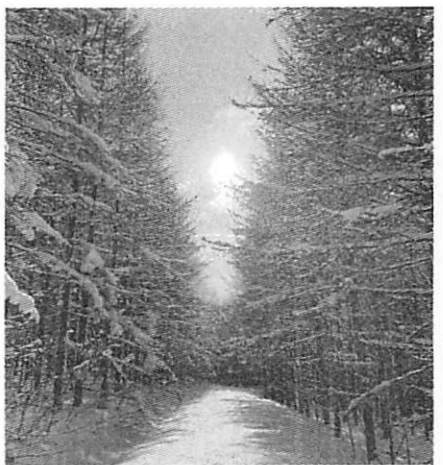
化などにより、この拘束性が強く、閉鎖的な地域共同体は次第にその必要性を失っていく。それまでの地域共同体は「わ

ざらわしいもの」であり、人々はその「わざらわしさ」から解放され「自由」になったのだ。50年代から60年代には就職や進学、離農などにより都市部に人口が集中し、60年代後半から70年代前半には、住宅を確

保するために都市部の郊外に「ニュータウン」を開発することになる。

ニュータウンには多くの若い世代が入居し「自由」な空間がそこにはあった。しかし、一方で新しい地域生活には相談相手の不在や公害、犯罪、余暇施設の不足

など様々な問題があった。つなかりを失った新しい地域社会ではそれら問題に対応することが難しかったのである。そのため、これまでの「古い地域共同体」ではない、自主性



と責任を自覚し、開放的な構成員相互に信頼感のある新しい社会生活に適した集団として「コミュニティ」が推奨されたのである。

これら問題をどのように解決していくとができるのか。改めてコミュニティのあり方について考える必要があるかもしれない。

今日においても地域社会における問題は、数多く存在する。

社会福祉学科講師

江連 崇

「コミュニティ」についての話をよく聞く。普段からよく使